

月次県内経済

概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

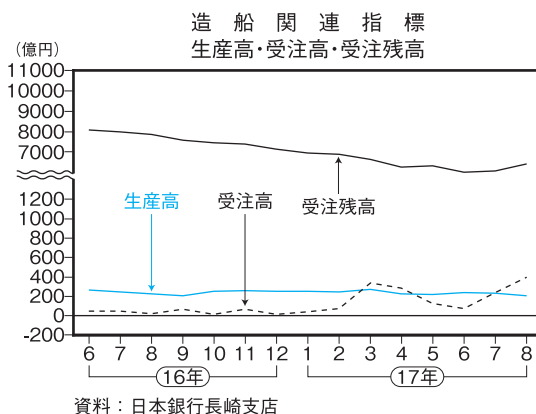
〈9月〉生産面では大手・中堅造船は既往受注により概ね高めの操業を維持、重電機械も堅調、電子部品は持ち直し続く。需要面では、公共工事請負金額が高水準ながら増勢一服、新設住宅着工戸数は堅調。個人消費では大型小売店販売額は底堅く、乗用車（登録車）販売台数は増加傾向。観光面は、主要施設の入場者数、宿泊者数とも弱含み。雇用面では有効求人倍率が1.1倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。10月入り後も生産・投資が底堅く、観光面は持ち直しの動き足踏み。

造船

一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

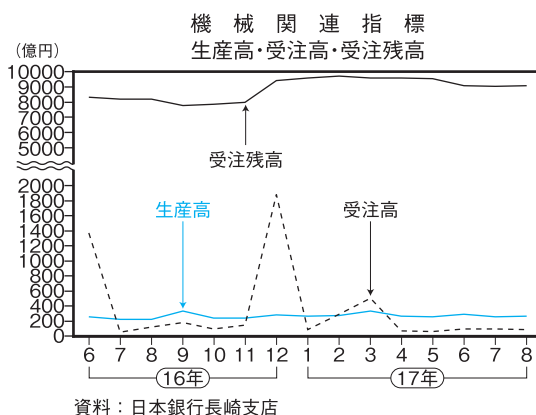


機械

重電機械は堅調、電子部品は持ち直しの動き

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は新興国の需要を背景とした海外プラント関連に加え、国内でも一定の受注を確保。列車空調装置は受注持ち直しの傾向。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境のなか、持ち直しの動き続く。



小売商況

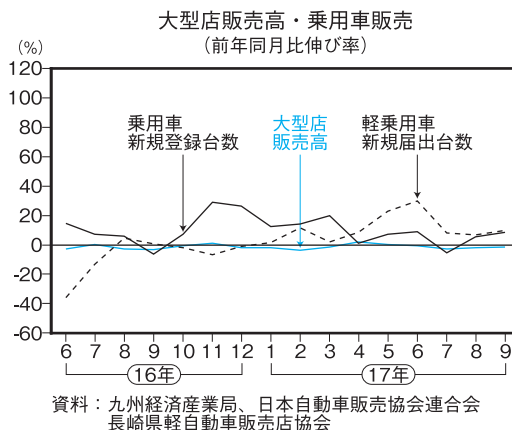
概ね横這い圏内の動き

小売商況をみると、9月の県内大型小売店販売額は前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車ともプラス、サービス消費面の旅行取扱高はプラスに転じた。10月度の大型小売店等の売上げについては、気温の低下から秋物商材に動きがみられ、全体として底堅く推移。

9月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は78億円、前年同月比1.6%減（同一店舗比較）と4カ月連続のマイナスとなった。品目別では、紳士服・洋品7.7%増となったものの、主力の婦人服等が5.4%減、身の回り品5.2%減など、衣料品全体で3.1%減となったほか、飲食料品が1.5%減。このうち、百貨店では、衣料品や身の回り品が低調も、家庭用品、食料品、雑貨は堅調。スーパー・大型店等では、季節商材や飲食料品などで動きがみられた。一方、コンビニやドラッグストア等専門量販店は、堅調な売上が続いている。

乗用車販売では、9月の**新規登録台数**は2,056台、前年同月比8.4%増と2カ月連続のプラス。うち普通車は10.0%増の1,041台、小型車も6.8%増の1,015台。また、軽自動車は2,046台、10.0%増（10月：0.8%増）となり、9カ月連続の増加。軽を含む総販売台数でも4,102台、9.2%増と12カ月連続の増加。

サービス消費面では、9月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が3.4%増と3カ月振りの増加。うち国内旅行が1.5%減、海外は18.0%増となった。

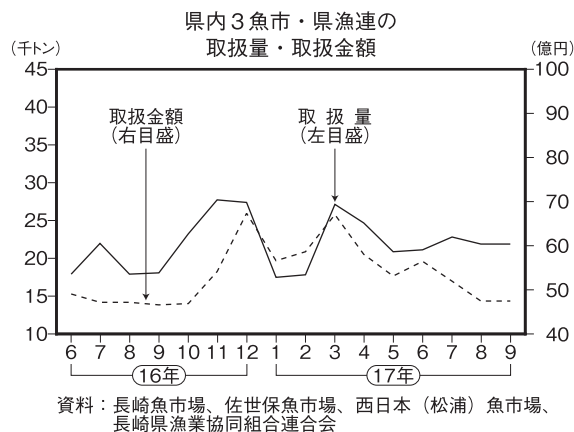


水産

取扱量、金額ともに増加

9月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量**は2.2万トン、前年同月比20.9%増となり、**取扱金額**も48億円、同1.9%増と前年を上回った。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比0.9%の微増となったが、単価が18.6%下落し、金額は17.8%減となった。一方、サバも数量が約2.2倍となり、単価が25.8%下落したものの、金額は前年を66.7%上回った。



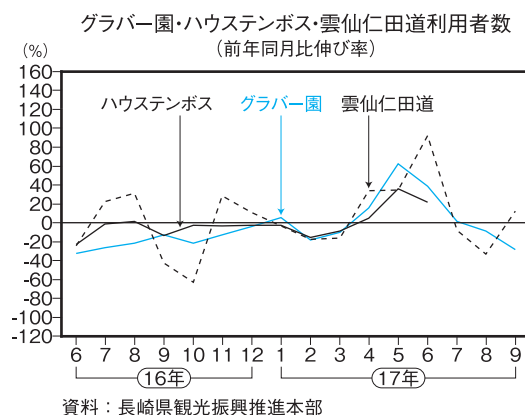
観光

主要施設の入場者数、宿泊客数ともに減少

9月の県内観光をみると、前年が熊本地震対策の観光復興キャンペーン「九州ふっこう割」における最大割引が適用される最終月であったことの反動から、主要観光施設の入場者数、主要宿泊施設の宿泊客数ともに減少した。

主要観光施設等（13施設）の入場者は473千人、前年同月比13.0%減となった。地区別にみると、県南地区では映画「沈黙－サイレンス－」効果により遠藤周作文学館（51.2%増）が健闘したものの、グラバー園（28.2%減）と長崎原爆資料館（19.3%減）は減少した。なお、長崎県美術館（15.3%減）の入館者数が計画より1年早く累計500万人を達成している。一方、島原半島では雲仙仁田道（12.6%増）が増加したものの、島原城（21.3%減）と雲仙岳災害記念館（19.7%減）はともに減少した。県北地区は平戸城（1.4%増）が微増となったものの、ハウステンボスと九十九島パールシーリゾート（5.9%減）は減少した。離島地区では堂崎天主堂（4.7%増）が増加したものの、一支国博物館（3.9%減）は減少し、万松院（0.7%減）も微減となった。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比15.3%減少した。地区別にみると県南地区は17.8%減少し、県北地区も12.6%減少した。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、被災地の熊本に近い雲仙地区の宿泊客数は13千人、前年同月比51.8%減と大きく減少し、小浜地区も9千人、同2.1%減少した。



公共工事

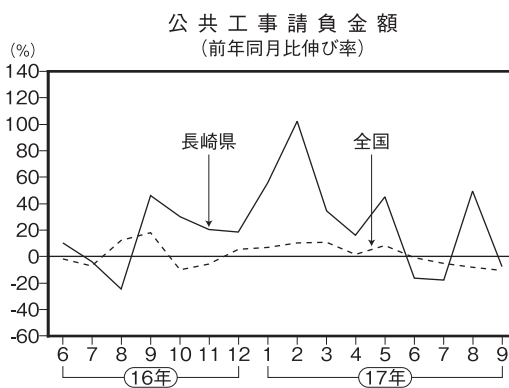
増勢一服も、高水準続く

9月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は496件、前年同月比4カ月連続の減少、**請負金額**は217億円、同7.6%減となり2カ月振りに前年を下回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（22億円、49.3%増）は増加したものの、「県」（87億円、10.8%減）と「市・町」（89億円、19.7%減）は減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、**県北地区**（53億円、56.8%増）、**長崎地区**（44億円、25.0%増）、**対馬地区**（18億円、14.9%増）の3地区。一方、**諫早地区**（43億円、42.0%減）、**田平地区**（16億円、26.1%減）、**島原地区**（14億円、31.6%減）など7地区は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、九州防衛局発注の**崎辺**（28）隊庁舎等新築工事（2件、15億円）、大村市発注の**中学校給食センター**新築工事（2件、11億円）など。



資料：西日本建設業保証

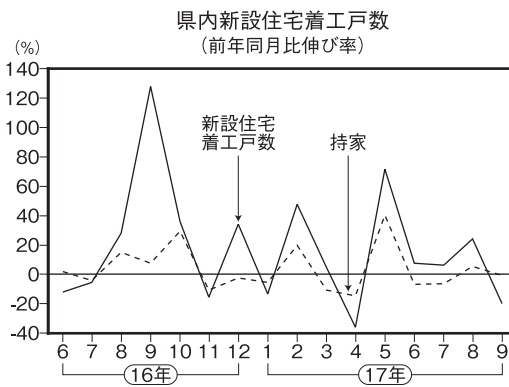
住宅建設

堅調に推移

9月の**新設住宅着工戸数**は667戸、前年同月比19.9%減（以下同じ）となり、前年（127.6%増）の大幅増の反動もあって5カ月振りに前年を下回ったが、引き続き堅調に推移している。

利用区分別にみると、**持家**が262戸で0.8%減、**貸家**が245戸で39.4%減、**分譲**が159戸（うちマンション129戸）で1.9%減などいずれも前年同月を下回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、**長崎市**（350戸、18.6%増）、**佐世保市**（68戸、25.9%増）、**島原市**（12戸、33.3%増）など8市郡で前年を上回り、**諫早市**（64戸、66.5%減）、**大村市**（58戸、61.1%減）など7市郡で前年を下回った。



資料：国土交通省

雇 用

緩やかな改善傾向続く

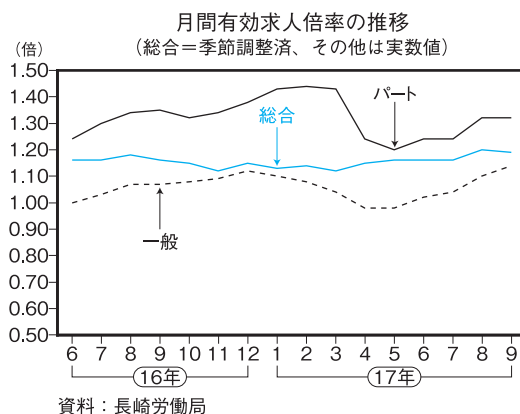
9月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.01ポイント下回る1.19倍。また、全国の有効求人倍率は前月と同水準の1.52倍となった。

新規求人数は11.1千人、前年同月比9.8%増となり、2カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が9.6%増と3カ月連続の増加、パート求人は10.1%増となり2カ月連続の増加。主な業種別にみると、サービス業（36.5%増）、製造業（15.8%増）、飲食店・宿泊業（12.2%増）では2桁増、医療・福祉（8.3%増）なども前年を上回り、製造業（7.3%減）では前年を下回った。一方、**新規求職者数**は6.3千人、前年同月比3.5%増となり4カ月振りに増加。形態別では、一般求職者が0.5%減、パート求職者が11.0%増となった。

また、**有効求人数**は28.8千人、前年同月比4.5%増となり33カ月連続のプラス、**有効求職者数**も24.0千人、前年同月比1.8%増と4カ月連続して前年を上回った。

就職件数については、2.6千件、前年同月比2.5%減と3カ月連続の減少。また、**雇用保険受給者実人員**は引き続き減少傾向を辿っており、当月も5.4千人、前年同月比4.4%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産

小康状態が続く

10月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比1件減の3件にとどまり、14年11月以降、36カ月連続して一桁台が続いている。

一方、**負債総額**は卸売業で比較的大きな倒産があったことから9.8億円と、前年同月比83.6%増加した。

倒産件数を業種別にみると、卸売業が2件、製造業が1件。倒産原因は全て「販売不振」。

